神奈川県立伊勢原養護学校　第２回学校運営協議会　開催報告

本校の学校運営協議会を次のように開催した。

名称	神奈川県立伊勢原養護学校　第２回学校運営協議会
開催日時	令和４年 10 月 25 日（火）　９：30～11：00
開催場所	神奈川県立伊勢原養護学校　会議室
出席者	学校運営協議会委員８名　学校事務局６名
次回予定日	令和５年２月下旬（調整中）
問合せ先	神奈川県立伊勢原養護学校　副校長　吉田浩司 電話　0463-93-7928　　FAX　0463-93-2457
議題	令和４年度　学校運営協議会 学校評価部会 ・学校評価（中間評価）について ・各学部、グループの取組について ・不祥事ゼロプログラム行動計画（中間検証） 切れ目ない支援部会
審議(会議)経過	【学校運営協議会】 ＜事務局＞ ・コロナの影響がありつつも通常の生活を取り戻してきているが、学校現場ではまだ対策を取りながらの教育活動なため不十分な部分もある。工夫や努力できる点についてもっと考えていきたい。 ＜学校評価部会＞ （小学部） ・児童の意欲を引き出す授業改善や、わかりやすく学習するために ICT や絵カードを活用している。 （中学部） ・ iPad などの視覚機器を用いたり、専門職と連携したりして教室や学習環境を整えている。 （高等部） ・学校アセスメントの実施し、後期目標に取り入れるなどができた。指導案や教材のデータベース化を行っている。伊志田高校と模擬投票を一緒に行い、効果を感じている。 （施設訪問教育七沢学園） ・個別教育計画作成時にケーススタディとして検討した。「ちいき」の授業では玉川小と交流している。 （伊志田分教室） ・３年ぶりに水泳指導ができた。従来の活動を取り戻しつつある。伊志田高校との交流もできている。

	＜教務ＧＬ(グループリーダー)＞ （１．教務グループの中間評価） ・学部運営要綱、年間指導計画の書式の統一。新たな課題として系統的に学習をすすめるために、指導内容表の必要性が挙がり、進めている。 ・座席を空ける、人数制限などの感染対策をとりながら行事を行っている。サマースクールは学部ごとに対策をして実施。学校だよりはＧＬも寄稿するなど幅広く発信している。 ・児童生徒の実態に合わせた教科書採択をしている。 ＜教育推進ＧＬ＞ （２．教育推進グループの中間評価） ・校内研修会として、人権研修２回や「ことば数の指導」「わかりやすい具体的な学習評価」などの研修会を行った。公開授業研究会として、「目標と評価の具体化に向けて」というテーマで横浜国立大学の教授に来校していただく。 ・学校アンケートをもとにいじめ防止会議を行った。いじめはなし。相談したいと記入した児童生徒 13 名にはすぐに対応し聞き取りをしている。 ・健康診断の事前指導の工夫や、視力検査で iPad を用いるなど、意思表示のツールとして活用している。
＜委員＞	Ｑ）校内研修が多いが、個別のフィードバックはしているか。 Ａ）アンケートは都度行っているが、全体の声として取り入れている。
＜委員＞	Ｑ）視力検査のアプリを教員が作成したとのことだったが、得意な教員がいるのか。 Ａ）ドロップトークを使用しており、この教員のクラスでは意思表示の場面などで日常的に使用している。慣れるとすぐに作成が可能。 カードを使用する場面もあるが、子どもの状態に合わせて使用している。
＜委員＞	Ｑ）Android は使用しないのか。子どもが持ち込む場合もあるか。 Ａ）県から配備されているものが iPad である。貸し出しも可能だが、現在行っている例はなく、まずは校内で使用できることを目指している。 ＜総務ＧＬ＞ （３．総務グループの中間評価） ・全職員に対して実効性のある防災研修を行った。緊急時に教員が実行できるような学びができた。 ・発語のない子の意思表示手段などとしても iPad が活用され

	ている。教員の ICT スキル向上のために研修会も行った。 ・学校ホームページへ給食や、活動の様子、制作物の写真などタイムリーな情報発信をしている。
＜委員＞	Q）ICT の活用によって、児童生徒の興味関心はどうか。 A）児童生徒の興味は強く、意欲につながりやすいと感じている。
	＜連携支援ＧＬ＞ （４．連携支援グループの中間評価） ・アセスメントをより個別教育計画に活かせるように対応表を作成している。 ・３年ぶりのボランティア養成講座から３名の新規ボランティアの活用につながった。 ・卒業後に求められる力に変化が見られる。以前はバックヤード中心だったが、フロアやレジ、接客などの仕事も増えている。企業の変化に合わせていけるように学校も取り組んでいく。
	＜不祥事ゼロプログラム行動計画（中間検証）＞ ・県から通知される不祥事防止点検資料を活用した毎月の取組。 ・ＧＬによる不祥事防止研修 ・全職員対象の校内研修（わいせつ・セクハラ防止、人権） 　これまでの取組の報告とこれからの継続的な取組について。
＜委員＞	Q）不祥事防止点検資料の取組みは、以前から全県で行われているか。 A）はい。
＜委員＞	Q）中井やまゆり園の事件の再発防止の注意喚起にもなるが、学校では困難事例に対する研修会などを行っているか。また、幼保の園バスの事故など当然のことが事故につながってしまうことで制度が変わってしまう。未然に事故を防ぐアイデアがあれば知りたい。 A）事例の研修は全体としては行っていないが、学部・学年ごとにケース会を開いたり、週１回の学年会・共有会の中で常に共有したりしている。必要に応じて学年から学部、全体へと発信したり、相談班や、外部機関とも連携していることで、おのずと人権意識が高まりやすいと感じる。事故防止としては、バス内に限ったことではなく、児童生徒の人員確認をどの場面で行うかの仕組みを確認することが未然防止につながると考え職員に周知している。
	＜切れ目ない支援部会＞ ・伊志田高校、石田小学校との交流はできるところから始めている。

	・伊勢原市の小中学校特別支援学級教員向けの、伊勢原高校との合同説明会の実施。 ・産業能率大学学生のインターンシップ実習として、本校の紹介動画の作成をすすめていく。 ・玉川小学校と、施設訪問教育七沢学園の児童の交流をすすめている。 ・「卒業生の話を聞こう」で地域の企業に協力を得ている。 ＜意見交換・熟議＞
＜委員＞	・分教室生徒の成瀬コミセンの清掃など、とてもきれいにしてくれて感心している。 ・制服の上着を着ていなかったり、靴のかかとを踏んでいたりする生徒を見かけるが、自立と社会参加の視点で卒業後の生活を見据えた服装指導も行ってほしい。 Ａ）学校のルールを守る指導は必要。場面に応じて行っていく。
＜委員＞	・分教室の生徒は、伊志田高校の校内もきれいに清掃してくれている。 ・服装については高校も同様に考え、指導している。伊志田高校とはインフォーマルな交流もすすんでいる。教員の授業参観や、文化祭の出し物など、生徒の顔がわかる関係になった。また、特性のある生徒の相談も受けてもらい、ケース会の実施につながった。 ・最終報告では、「～をしたから、児童生徒が～になった」というような児童生徒の変容につなげての報告をお願いしたい。
＜委員＞	・模擬投票とはどのようなものか。 Ａ）シチズンシップ教育の一つとして取組んでいる。一市民として、近々有権者になる高等部段階の生徒が国政選挙前に模した選挙を行っている。有権者意識を高めることがねらい。
＜委員＞	・元々は高校が行っていたことで、今回は伊志田高校の武道場を会場にし、本物の投票箱などを借りて行った。実際の候補者のリストを使って事前学習も合同で行っている。
＜委員＞	・書式の統一など、着実に取り組みを進めていると感じる。ICTに興味を持つ生徒が増えることで、事務的な作業など仕事の幅も変わってくると感じる。 ・小学部から高等部へ自立に向けた一貫した教育を考えるときに、雇用部会で作成している「企業就労へのステップ＆チャレンジ 50」も参考にしてほしい。
＜委員＞	Ｑ）生徒の変容について、教員や保護者へアンケートを行う時期はいつか。 Ａ）年度末の報告の時期に行う。 ・教員と保護者の意識に差があったり、保護者の意識も変化して

	きた。小学部段階の保護者は不安も大きいため、将来の自立に向けての取組みを伝えていってほしい。本人が、なぜ働くのかという意識を持てるような動機付けを大切にしてほしい。 〇事務連絡 ・次回は、学部長の参加も促すようにする。 ・第３回伊勢原養護学校学校運営協議会開催期日について、２月下旬に候補日を設定し、可能な範囲で返答をいただく。事務局から連絡する。 ＜校内見学＞ ・高等部の校内実習の様子を見学。 ＜「意見書」でいただいたご意見ご感想等について＞ 　毎年、市内小中学校の特別支援学級に在籍する児童生徒数は増え続けています。それに伴い、特別支援学級を担当する教員も増えてきております。全員が特別支援学級の専門ではない中で、各小中学校では教育相談コーディネーターを中心としてチームとして対応しております。伊勢原養護学校さんのセンター的機能により、支援をいただけることが本当にありがたいと思っております。今後もどうぞよろしくお願いいたします。